

学習指導要領の改訂に向けた動きなど
お役立ち Hot 情報をお届けするニュースレター

きょういく プレス



平成 27 (2015) 年 11 月 12 日

第 3 号

発行 ㈱ぎょうせい

(隔週木曜発行)

〒 136-8575 東京都江東区新木場 1-18-11

フリーコール 0120-953-431

フリー FAX 0120-953-495

Web サイト <http://gyosei.jp>

e-mail Eigyedu@gyosei.co.jp

「ぎょうせい」は、学校教育に携わる皆様のため、
教育行政・学校学級経営・教科教育・授業づくりに
関する書籍をはじめ、様々なコンテンツをご提供し
ています。

中央教育審議会

総会

中教審が教員定数について 緊急提言——財政審の削減策に反論

中央教育審議会（中教審）は、10月28日に開かれた総会で、財務省の財政制度等審議会（財政審）が打ち出した教員削減案に対し強い反対を表明した緊急提言を採択した。

財政審は26日に開かれた会議において、9年間で3万7000人の教員を削減する方針を決定（「きょういくプレス」第2号で既報）。当面、来年度に3500人を削減する意向を固めた。

これに対し、中教審総会では、各委員から批判が続出。加配定数まで削減するという方針に「暴論」とする意見や、いじめや不登校、発達障害など多様化する教育課題の解決のために「教員定数の戦略的な充実策が必要」との提言も出された。

中教審総会会長の北山禎介氏（三井住友銀行会長）は、会議後のコメントで、「次代を担う子どもたちの育成に学校組織が充実していくことは重要。多様化する子どもの課題に対応する点からも教職員定数を機械的に削減することに賛成はできない」とし、さらに「教育効果を議論できる共通のものさしを議論していきたい」と、同じ土俵に立って議論する必要性を訴えた。

緊急提言の概要は以下のとおり。

教職員定数に係る緊急提言

平成 27 年 10 月 28 日

中央教育審議会

（略）本審議会は、この緊急提言を行うものである。

教職員定数の機械的な削減ではなく、多様な教育課題や地域のニーズに応じた確固たる教育活動を行うために必要な教職員定数を戦略的に充実・確保すべきである。

少子化が進む一方、児童生徒への指導は近年困難化している状況にある。例えば、①子供の貧困と教育格差の拡大、②障害の状態に応じた特別な指導を必要とする児童生徒の著しい増加、③日本社会への適応に課題がある外国人児童生徒の増加、④いじめ・不登校・暴力行為などの生徒指導上の課題の更なる深刻化など、これらの多様な課題を抱える子供たちが社会で活躍できるようにするための指導体制の整備は一刻の猶予もならない。

（略）

日本の教員は世界で最も長時間の勤務を行っている。教員業務の質量双方の増加は時間外勤務の増加と研修時間の減少を招いており、学校がこのような新しい改革に機動的に取り組むことを難しくしている。

（略）

なお、エビデンスに基づく教育の成果の検証を重視し、教育政策に関する実証研究を継続的に行うことは非常に重要である。（略）こうした取組（注：全国学力・学習状況調査等）を更に積極的に進め、一層の展開を図るべきである。

（略）

●各学校種と教科をつなぐ「結節点」

中教審・教育課程部会の下に今秋設置された「総則・評価特別部会」の初会合が、11月2日に開催された。改訂の基本方針となる「論点整理」を8月にとりまとめた教育課程企画特別部会に引き続き、主査は羽入佐和子・お茶の水女子大学前学長、副主査は天笠茂・千葉大学教授が務める。

初会合では、「指導要領の検討と評価の検討を一体的に進めることが重要」「総則の書き表し方から検討すべき。読み手に伝わる、読み手が使える総則となるように」「アクティブ・ラーニングという言葉が現状独り歩きをさせてしまっている。改訂の一部のイメージだけが先行しないよう総則の内容には留意すべき」「幼児教育と小学校教育の接続を盛り込みたい」など、活発に意見が交わされた。

10月下旬より、「外国語ワーキンググループ」「理科ワーキンググループ」「言語能力の向上に関する特別チーム」など教科・課題別のワーキンググループと、幼・小・中・高・特支という学校段階別部会とが続々と審議を開始しているところであるが、文科省は、その「タテ」（学校段階）と「ヨコ」（教科等）の審議をつなぐ“結節点”として「総則・評価特別部会」を位置付けており、改訂に向けて先導的な役割を果たすと目されている。平成27年度末から28年度明けを目途に審議がとりまとめられる予定だ。

月刊シリーズ『新教育課程ライブラリ』（全12巻／平成28年1月中旬刊行開始） 無料パイロット版が完成!! 全国の学校に順次お届け中!!

次期学習指導要領に向けての新しい情報を毎月お届け!

新教育課程ライブラリ

全12巻・毎月16日刊行予定

Vol.0 [パイロット版] (無料)

平成28年
1月刊行開始!

保存版 新課程キーワード解説

キーワード解説
育成すべき資質・能力 (村田幸弘) / アクティブ・ラーニング (田村 学)
パフォーマンス評価 (田村 学) / カリキュラム・マネジメント (田村 学)
社会に開かれた教育課程 (吉富芳正) / 評価の観点 (藤田 隆)
外国語教育 (菅 正隆) / 「特別の教科 道徳」 (林 泰成)

Interview
次期指導要領は「学び方」を変えるチャレンジ
無藤 隆 (白梅学園大学教授)
学校の主体性を発揮した教育課程の創造が課題
—新教育課程に向けての学校現場の課題—
天笠 茂 (千葉大学教授)

提言
教科の本質に迫る授業研究を—教える教材から資質・能力を育む教材へ—
奈須正裕 (上智大学教授)

平成28年6月30日まで
全12巻セット特価
14,400円 (税別)
(1巻あたり 1,200円 (税別))

1,800円 (税別) がセットでお得!!
(通常セット特価16,200円 (税別))
(1巻あたり 1,350円 (税別)) のところ
特価でのご購入です。

ご予約受付中!
03-6362-1111 (受付時間: 10時~18時)
おまかせ!

▲パイロット版表紙

*パイロット版の仕様は A4 判 / 32 ページです。
*パイロット版は数に限りがございます。

- 『新教育課程ライブラリ』については本「きょういくプレス」の最終面をご覧ください。
- 無料パイロット版は、11月初旬より順次、全国の小中学校にお届けしております。ご希望の方は弊社までご一報ください。

■ Interview

無藤 隆 (白梅学園大学教授)

次期指導要領は「学び方」を変えるチャレンジ—論点整理に見る改訂の方向性—
天笠 茂 (千葉大学教授)

学校の主体性を発揮した教育課程の創造が課題—新教育課程に向けての学校現場の課題—

■ キーワード解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 育成すべき資質・能力 | 村川雅弘 (鳴門教育大学大学院教授) |
| 2 アクティブ・ラーニング | 田村 学 (文部科学省初等中等教育局視学官) |
| 3 パフォーマンス評価 | 西岡加名恵 (京都大学大学院准教授) |
| 4 カリキュラム・マネジメント | 田村知子 (岐阜大学大学院准教授) |
| 5 社会に開かれた教育課程 | 吉富芳正 (明星大学教授) |
| 6 評価の観点 | 脇田哲郎 (福岡教育大学教授) |
| 7 外国語教育 | 菅 正隆 (大阪樟蔭女子大学教授) |
| 8 「特別の教科 道徳」 | 林 泰成 (上越教育大学教授) |

■ 提言

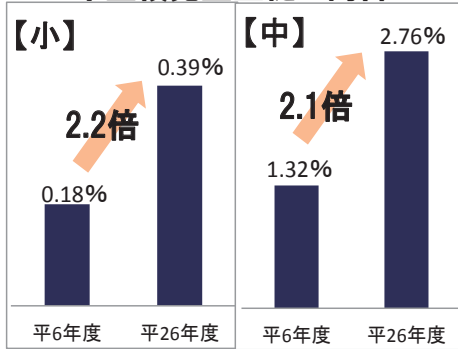
奈須正裕 (上智大学教授)

教科の本質に迫る授業研究を—教える教材から資質・能力を育む教材へ—

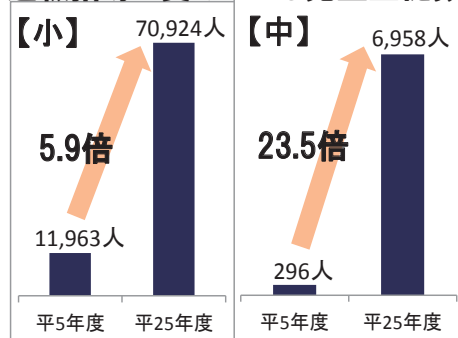
数字あっとランダム

学校をとりまく課題は複雑化・多様化の一途をたどっている。学校の機能を最大限かつ効果的に発揮するため、専門人材と教職員とでチーム体制を組む方策について現在中教審で検討中(チーム学校)。12月答申予定。

不登校児童生徒の割合



通級指導を受けている児童生徒数



Key Word

地域学校協働本部

学校と地域の連携・協働を進めるため、中央教育審議会が検討している新しい体制の仮称。平成27年12月公表予定の答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」に盛り込まれる見込みだ。

現在すでに「学校支援地域本部」等のもと、放課後子供教室、土曜教育活動、授業補助など、地域人材による様々な支援活動が各校区で行われている。これら既存の活動に対し、①コーディネート機能の充実、②「支援」から「連携・協働」へ、③個別の活動の総合化、の3点を推し進めることをねらい、より大きいプラットフォームとして「地域学校協働本部」の考え方が登場した。

答申案では、地域の実情に応じて活動内容を選択する、としているが、学びによるまちづくりや家庭教育支援まで、想定している活動の間口は広い。具体的な運営イメージや既存組織との違いについての整理は今後に待たれるが、コミュニティ・スクール拡充の方針とともに、これからの学校・地域の関係強化の基盤となるものとして注視する必要がある。



11月 ◆12日 皮膚の日 ◆13日 日本で100年ぶりに新種の鳥発見、「ヤンバルクイナ」と命名(1981)／茨城県民の日 ◆14日 埼玉県民の日／大分県民の日
◆15日 きもの日／昆布の日 ◆16日 幼稚園記念日(1876年、東京女子師範学校附属幼稚園[現在のお茶の水女子大学附属幼稚園]開園) ◆17日 長崎・雲仙普賢岳噴火(1990)／将棋の日 ◆18日 ミッキー・マウス誕生(1928) ◆19日 リンカーンによるゲティスバーグ演説(1863) ◆20日 世界こどもの日／山梨県民の日 ◆21日

世界テレビ・デー／インターネット記念日 ◆22日 ケネディ大統領暗殺(1963)／夫婦の日／和歌山県ふるさと誕生日 ◆23日 勤労感謝の日／ゲームの日 ◆24日 鯉節の日／進化の日(1859年、ダーウィン『種の起源』刊行)
◆25日 三島由紀夫割腹自殺(1970)／女性に対する暴力廃絶のための国際デー ◆26日 プロ野球、パシフィック・リーグ結成。2リーグ制へ(1949) ◆27日 ノーベル賞制定記念日 ◆28日 鹿鳴館開館(1883)／税関記念日／太平洋記念日 ◆29日 議会開設記念日(1890年、第1回帝国議会開会) ◆30日 カメラの日

●●○ 11/12 ~ 11/30 生まれの著名人 ○●●

オーギュスト・ロダン(12日)、岩崎宏美(12日)、岸信介(13日)、木村拓哉(13日)、こおろぎさとみ(14日)、力道山(14日)、加藤みどり(15日)、内田康夫(15日)、まど・みちお(16日)、小島よしお(16日)、イサム・ノグチ(17日)、本田宗一郎(17日)、森進一(18日)、岡田准一(18日)、インディラ・ガンディー(19日)、松崎しげる(19日)、市川崑(20日)、小池栄子(20日)、平幹二郎(21日)、指原莉乃(21日)、シャルル・ドゴール(22日)、aiko(22日)、田中邦衛(23日)、田中みな実(23日)、バーネット『小公女』作者(24日)、ロートレック(24日)、岡田彰布(25日)、寺門ジモン(25日)、最相葉月(26日)、市川猿之助[4代目](26日)、松下幸之助(27日)、ブルース・リー(27日)、松平健(28日)、松雪泰子(28日)、勝新太郎(29日)、尾崎豊(29日)、マーク・トウェイン(30日)、宮崎あおい(30日)



平成 28 年 1 月
刊行スタート!

ご予約受付中

今からできる、今からすべき
「次の学びづくり」を強力にサポートします!

新教育課程ライブラリ

□ 全 12 巻 □

A4 判、表紙オールカラー、本文 96 頁 (2 色刷り 16 頁 / 1 色刷り 80 頁)、横組
ぎょうせい / 編

新教育課程はすでに始まっている !!

ワイド&ビジュアルな誌面で
教育の新たな潮流をいち早くキャッチ!

平成 28 年度指導要領改訂に向けた動きを
つぶさに追いながら、
日々の学校経営や授業実践に役立つ
旬の情報を毎月お届けします。

平成 28 年 6 月 30 日まで

セット特価 14,400 円 (税別)

[1 巻あたり 1,200 円 (税別)]

1,800 円 (税別) がセットでお得!!

通常セット定価 16,200 円 (税別)

[1 巻あたり 1,350 円 (税別)] のところ、特価でのご案内です。

*セット注文の場合:【送本】各巻発行のつど送本いたします。平成 28 年 1 月～12 月、各月中旬発行予定です。【請求】原則、初回送本時にセット一括でご請求 (請求書類を同送) いたします。巻ごとの請求をご希望の場合はその旨ご一報ください。

*バラで注文の場合:【送本・請求】ご注文の巻が発行次第、本と請求書類をお送りいたします。

■巻テーマ

- Vol.01 (平成 28 年 1 月配本) 新教育課程型授業を考える—アクティブ・ラーニングの理論と実践
- Vol.02 (平成 28 年 2 月配本) 学校現場で考える「育成すべき資質・能力」
- Vol.03 (平成 28 年 3 月配本) 子どもの姿が見える評価の手法
- Vol.04 (平成 28 年 4 月配本) 21 世紀型学力の育成と管理職のリーダーシップ
- Vol.05 (平成 28 年 5 月配本) 学校ぐるみで取り組むカリキュラム・マネジメント
- Vol.06 (平成 28 年 6 月配本) 「チーム学校」によるこれからの学校経営
- Vol.07 (平成 28 年 7 月配本) これからの授業力と研修
- Vol.08 (平成 28 年 8 月配本) 特別支援教育の実践課題
- Vol.09 (平成 28 年 9 月配本) カリキュラムからみる不登校対応
- Vol.10 (平成 28 年 10 月配本) 全国学力調査にみるこれからの課題
- Vol.11 (平成 28 年 11 月配本) 社会に開かれた教育課程」を考える
- Vol.12 (平成 28 年 12 月配本) 見えてきた新学習指導要領—各教科等の検討内容

*テーマ名は変更する場合がございます。

- 文科省教科調査官、研究者、学校管理職や授業者など、第一線の執筆陣! 確かな内容!
- インタビュー、論考、実践レポート、エッセイ、管理職の目、現場教師の声—。多角的に教育の今に迫ります。



●学校の先生方のお仕事に関わるニュースを隔週でお届けする「きょういくプレス」。第 3 号はいかがでしたでしょうか? ●中教審では指導要領改訂に向けて教科別の審議がいよいよスタート。折々の審議状況をタイムリーにお伝えしていきます。●「きょういくプレス」メール配信 (無料サービス) のお申し込みを受け付けています! お申し込みいただいた皆さま、ありがとうございました。まだの方はこの機にぜひお申し込みください。右の QR コードから、配信サービス登録サイトに簡単にアクセスしていただけます。



●ご注文・お問い合わせ先

(株)ぎょうせい

フリーコール 0120-953-431
フリー FAX 0120-953-495
Web サイト <http://gyosei.jp>
e-mail Eigyo-edu@gyosei.co.jp

●取扱者